



ポンペイ古代美術展  
Mostra d'Arte Pompeiana

1967. 4. 8~1967. 5. 28 (東京, 国立西洋美術館)

1967. 6. 10~1967. 7. 16 (大阪, 大阪市立美術館)

1967. 7. 29~1967. 8. 27 (福岡, 福岡県文化会館)

出品内容=モザイク:2点 大理石:18点 壁画:68点  
ブロンズ:51点 テラコッタ:47点 ガラス:19点 貨幣:50点

読売新聞社と共催

入場者:東京=324,282 大阪=204,076 福岡=102,266

古代考古学におけるポンペイ、ヘルクラネウムの特異性、無限の価値については言をまたない。たんに考古学的な価値にとどまらず、文化史的、宗教的、風俗学的な意義を、最近の発掘品を含めた「新発掘」の出土品と豊富な資料によって総合的に紹介することは、西洋美術館の最初の本格的な古代美術展（ミロのヴィナスの特別展示は例外的なケース）として大きな意義をもつ。イタリア中亜極東研究所、ナポリ国立考古博物館の熱心な協力によって、この展覧会は美しい実現をみた。これによって日伊文化交流は新しい展開をみせ、今後ゆたかな可能性を期待することができるようになった。出品絵画はいずれも壁画そのものを切り取った断片で相当の重量がありその展示照明に苦心したが、豊富な模型や写真資料と作品をどのように組合わせて構成するか、ポンペイ家屋内部のモデル・ルームの設置など、新しい試みは貴重な経験であり、或程度成功したと思う。

デュフィ展  
Raoul Dufy

1967. 11. 3~1967. 12. 17 (東京, 国立西洋美術館)  
1968. 1. 4~1968. 2. 18 (京都, 京都国立近代美術館)

出品内容=油彩: 80点 水彩グワッシュ: 28点 デッサン: 56点 版画: 20点 タビスリー: 4点 プリント布地: 2点 陶器: 9点  
入場者: 東京=61,919 京都=22,993

デュフィ展は、フランス文化省、フランス国立美術館総局、パリ国立近代美術館の協力を得て、デュフィ夫人遺贈の作品を中心とし、フランス各地の主要美術館31館よ

りの出品のもとに、回顧展の形で開催された。総点数199点に及ぶ出品作は、デュフィの画風発展の全時期を網羅するのみならず、油彩、水彩、グワッシュ、デッサン、版画、タビスリー、布地、陶器などの多彩な活動分野にもわたり、従来ほとんど紹介の機会のなかったこの画家の画業を展望しうる展覧会となった。観覧者は意外に少数であったが、これは、美術館単独主催による宣伝力の不足、諸種の条件による広報活動開始の遅滞、開催時期が年末にかかったことなどに由来すると考えられる。しかし、観覧者の印象、とくに専門家間における好評はこうした比較的地味な、いわば中規模の特別展における当館の美術館活動の意義を証明したといえるだろう。



## 巡回展記録

昭和42年度

絵画：50点 彫刻：15点

● 4月28日～5月21日

会場=鹿児島市立美術館

鹿児島県教育委員会，鹿児島市と共催

入場者数=65,554



鹿児島会場

● 11月19日～12月10日

会場=香川県文化会館

香川県教育委員会，高松市，四国新聞社と共催

入場者数=106,134



高松会場

昭和42年度常陳展 総入場者数=131,192

## 講演会記録

昭和42年度

● ボンベイ古代美術展記念講演会

4月9日

古都ボンベイの歴史と文化

ボンベイ展イタリア側組織委員 アルフォンソ・デ・フランチシース（通訳佐々木英也）

4月28日

ボンベイの歴史とその生活

東大教授 秀村欣二

5月12日

白銀時代の趣味と文学

文芸評論家 篠田一士

5月19日

古代演劇と仮面

東大教授 今道友信

5月26日

ボンベイの美術

国立西洋美術館長 富永惣一

● デュフィ回顧展特別講演会

11月4日

フランスの画家デュフィ

パリ，国立近代美術館長 ベルナール・ドリヴァル（通訳穴沢一夫）

11月11日

デュフィとフォーヴィスム

国立西洋美術館長 富永惣一